

令和2（2020）年度 部局マネジメント方針

いのもと ひでひこ
学校教育部長 岩本 秀彦



仕事に対する基本姿勢及び部局の取り組み方針

令和2年度は、誰もが経験をしたことがない新型コロナウイルス感染拡大の状況下でのスタートとなりました。臨時休校が続き、学校に行って授業が受けられない、友達と会えないなど、通常の学校生活を送れないことで、保護者の方々や子どもたちは、我々教育委員会の職員以上に不安を抱かれたと、日々の業務の中で実感しました。

学校教育部では、一日でも早く、子どもたちの笑顔が溢れている日常の学校風景を取り戻すために、学校園と一丸となって、引き続き感染症対策に取り組むとともに、臨時休校により失った学習活動を保障し、あらゆる工夫をして子どもたちの学校生活を支えてまいります。

また、今年度は、昨年末に文部科学省が打ち出した「GIGA スクール構想」（GIGA とは「Global and Innovation Gateway for All」の略です。）のスタートとなる年です。子ども達に一人1台のパソコン端末と校内通信ネットワークを整備し、ICT を活用し新しい教育ヘシフトしてまいります。

新型コロナウイルスによる感染から子ども達を守り、新学習指導要領の実施やGIGA スクール構想など、学校教育部は新しいチャレンジを始めていきます。

令和元年度の振り返り

まず、学力向上に関しては、ICT 機器を効果的に活用し、電子黒板等を使ったわかりやすい授業展開の取り組みを進めました。また特別支援教育の推進を図るとともに、福祉的な視点から子どもを取り巻く環境の改善を図るためスクールソーシャルワーカーの配置を拡充しました。

学校現場においては、教職員の働き方改革を進めるため、夏季休業期間中の「学校閉庁日の導入」や「留守番電話の設置」など教師の負担の軽減を図る取り組みを実施しました。

中学校給食につきましては、4カ年計画での全校実施にむけて、令和元年度開始2校を順調にスタートいたしました。また、令和2年度開始7校の配膳室整備工事で食器・食缶等購入、令和3年度開始8校の内4校の事前整備工事を行いました。

教育センターでは、来所相談を始めとする様々な相談事業を展開し、子ども達のすこやかな育ちを支援しました。